

令和4年度 第一部会技術分科会 活動報告（概要）

令和5年7月
一般社団法人 日本消火装置工業会

1. 委員会

(1) 委員構成

15社16名で構成 ※令和5年3月末時点（前年比 -2）

(2) 開催回数

定例会（原則1回/月）10回+合同委員会0回=計10回 ※定例会は2回休会

2. 審議・確認事項

(1) 住宅用スプリンクラー設備等の周知と普及を目指した活動【継続】

後掲の住宅防火対応WG報告を参照のこと。

(2) 国土交通省「建築設備計画基準及び資料（令和3年版）」等改定の件【継続】

令和4年5月に国土交通省から「建築設備計画基準及び資料（令和3年版）」「建築設備設計基準及び資料（令和3年版）」の改定作業を開始するための意見募集があった。各社の意見を取りまとめて、技術委員会・事務局を通じて7月に提出した。その後、令和5年1月に改定1次案への意見募集があり、同様に意見を取りまとめて3月に提出した。改定作業の日程は2か年を予定しているとのこと（令和6年3月まで）。

(3) 公共住宅事業者等連絡協議会「公共住宅建設工事共通仕様書（令和元年度版）」改定の件【了】

令和4年6月に公共住宅事業者等連絡協議会から改定作業を開始するための意見募集があり、各社の意見を取りまとめて、技術委員会・事務局を通じて同月に提出した。

(4) リチウムイオン蓄電池の安全性に係る消火実験の件【了】

令和4年6月に消防庁から「リチウムイオン蓄電池の安全性に係る消火実験」の支援要請があった。目的は、スプリンクラー設備を設けることで、保管基準（面積や積み上げ高さ等の制限）を緩和すること。令和4年8月に予備燃焼実験を、令和4年12月に消火実験を行い、一連の活動を終了した（報告書は消防庁HPに掲載）。法令への反映は令和5年度になるとのことであった。

令和4年度は、本件に多くの時間を割いた。

(5) その他

- ・高気圧環境下における閉鎖型スプリンクラーヘッドの施工実績の質疑（消防機関より）
- ・消火設備ハンドブック 屋内栓ノズル放水量計算式の質疑（講師会より）
- ・屋内栓等工事基準書 採水口の等価管長の疑義（工事基準書改訂WG1より）
- ・UPS室におけるスプリンクラー設備の設置に係る疑義（消防庁より）

3. 関連作業部会

①設計・工事基準書改訂WG1（屋内消火栓設備等設計・工事基準書）

- ・委員構成（9社9名）
- ・会議開催回数：0回 ※メールで最終確認を実施
- ・令和4年11月に改訂版を発刊して終了した。

②住宅防火対応WG

- ・委員構成（10社11名）
- ・会議開催回数：7回
- ・住宅用スプリンクラーの普及と、パッケージ型自動消火設備Ⅱ型の住宅火災への有効性について、行政や認証機関のお墨付きを得るための検討を継続中。

以 上